

としまち研掲示板

△▼△としまち研 各部会の次回開催予定△▼△

共同建替え部会	5月23日(月)
コーポラティブ住宅部会	5月25日(水)
団地・マンション再生部会	5月25日(水)
福祉部会	6月21日(火)
総務部会	6月14日(火)
広報部会	6月14日(火)

としまち研会員の方であれば誰でも部会に参加できますので、是非ご参加ください。

☆進行中のプロジェクトニュース☆

・コーポラティブハウス神田東松下町パート3

4階まで躯体が立ち上がりました。

・奥澤コーポラティブハウス

解体工事が進んでいます。

引続き参加者(入居者)募集の住戸がありますので、どなたかお知り合いの方がいらっしゃいましたらご紹介ください。

～としまち研 各部会から、活動のお知らせ～

・復興支援委員会の立ち上げ

としまち研では、これまでに緊急理事会、検討会を開催し、東日本大震災の復興支援について検討してきましたが、平成23年度第1回理事会において、新たに「復興支援委員会」を立ち上げて体制をとり、具体的な支援に向けて取り組んでいくことになりました。第1回委員会を5月12日(木)に開催しました。次回は6月2日(木)の予定です。

としまち研通常総会のご案内

第11回通常総会を下記により開催いたしますので、ご多忙中とは思いますが、ご出席くださいますようご案内いたします。

記

日時：平成23年5月26日(木)午後6時30分より8時まで

場所：千代田区神田東松下町33番地 COMS HOUSE 2階 会議室

なお、総会終了後、懇親会を行います。議案等は別途ご案内いたします。

としまち研会員募集

としまち研では、活動に参加して下さる方(正会員)や活動を応援して下さる方(賛助会員)を募集しています。

詳しくはとしまち研のホームページをご覧ください。

まちづくりのご相談は事務局へ

○借入金があるが何か建替えの方法はあるか。
○お隣りも建替えを考えているようだが共同建替えは自分たちでは調整できない。
というような難しいご相談も検討します。
お気軽にご相談ください。

編集後記

東日本大震災後の日常はいつもと違う時間の流れを感じる中で、前号が記念すべき50号目だったことをすっかり忘れておりました。この50号分の記録は、としまち研の貴重な財産です。

先日、縁あって陸前高田に行ったのですが、なんとと言ったらよいのか、表現できないほどに悲惨な状況でした。その場所にどんな町が存在していたのかが全く想像できませんでした。一個人として、何ができるのか、何もできない自分にいらだちを感じながら帰ってきました。(事務局 飛澤)

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町33 COMS HOUSE 2階
tel 03-5207-6277 fax 03-5294-7326
E-mail info@tmk-web.com ホームページ http://www.tmk-web.com/
皆さまからのご意見、ご感想をお待ちしております。

としまち研現在の会員数
正会員55人 賛助会員33人
編集発行人 比護彰彦
事務局担当 飛澤玲奈



としまち研会報 第51号

おいらのまち

2011.5

発行 NPO都市住宅とまちづくり研究会 理事会

神田祭は神事のみ、復興支援とともに大地震に備える対策の検討へ

としまち研事務所のある東松下町の人々は神田須田町二丁目の神田川のほとりにある柳森神社の氏子です。今年は2年に一度のお祭りですが、町会ではみんなで力を合わせて取り組むお祭りを特に大切にしていたのですが、神田明神と同一歩調をとって例大祭の神事のみとし、御神輿を出す町祭礼は中止となりました。今度は2年後の平成25年5月の予定です。



例大祭 神事の様子

さて、としまち研では5月14日(土)・15日(日)、2チームを陸前高田と仙台へ、視察とボランティアに派遣しました。2面に掲載したように、皆さまからお預かりしている大切な救援募金の一部を寄付してきました(なお、救援募金は交通費その他には一切使いません)。今後も、としまち研としてまちづくりの分野での復興支援の準備をしていくとともに、救援募金活動を継続していきます。

復興支援とともに、首都圏で想定されている大地震に備える活動にも取り組みをはじめました。東松下町々会は区の防災課の出前講座をお願いし、6月8日(水)夜に実施されることになりました。また、取り組み中の(仮称)コーポラティブハウス神田東松下町パート3と(仮称)奥澤コーポラティブハウスでも、防災対策の検討を行うことが、それぞれ総会や理事会で確認され、近く打ち合わせがはじまることとなります。

また、としまち研では、コーポラティブハウスにお住まいでシンクタンクの研究者の方と一緒に、としまち研が取り組んだコーポラティブ・共同建替え、マンション建替えなどのマンションで、大地震の発生時とその直後にどのような行動もしくは活動が行なわれたかのヒアリングを各組合の皆さまにお願いすることにしました。ヒアリングの成果はしっかり共有できるように報告いたしますので、どうぞ協力をお願いします。(としまち研理事長 杉山昇)

おいらのひとりごと

『おいらのひとりごと』はとしまち研会員による、リレー形式のエッセイです。

『公務員であったこと』 としまち研 飛澤宜成

千代田区を定年退職して初めての大型連休がやってきた。これまでとどう違うのか。2日と6日の休みの申告をしなくてもいいことと、自分の居場所を気にする必要がないことぐらいか。これまでの公務員人生を振り返りつつも、これからどう生きるかを考えなければならぬ。今頃言ってるんじゃないよ。

いずれにしても、今後しばらくはここ(九段)を拠点に活動することになることから、まずはここをきれいにしようと、バルコニーの掃除から始めることとした。狭いバルコニーはすぐに終わった。次は網戸である。掃除機でほこりを吸い、固く絞った雑巾でしっかりと拭いた。ガラスの汚さが目立ってきた。水で洗い流し、乾いた布で二度拭きをした。そしたら、これまでは汚れに紛れ込んでいた小さな傷が現れた。どうしようもない。

公務員人生もこれと似たようなものである。課題を解決しようと頑張れば次の課題が出てくる。どこまで事を突き詰めるかである。適当なところで止めないとけがをする。さてこれからはどこまで自分の思いで生きようか。生きられるか。

※次号の『ひとりごと』は大須賀和宏さんです。お楽しみに。

一木会ご報告（原則、毎月第一木曜日に COMS HOUSE で行う勉強会・交流会です）

★第188回一木会（2011. 4. 7）

株式会社ベストの会長である太田博氏に、「吉村順三と建築金物の世界」と題して、ご自身で撮影された吉村順三作品の建築写真の数々とともに、吉村順三氏との交流について、また、ご商売である建築金物の製造や販売に関するこだわり、など多方面のお話を伺いました。



神田生まれで神田育ちの太田会長のお人柄が伝わる楽しい会となりました。

★第189回一木会（2011. 5. 12）

建築家・株式会社山田屋代表取締役であり、『和のいえ櫻井』主宰の山田哲矢氏から、江戸末期の古民家を修復して、高齢者デイサービスと学童保育（寺子屋）を起業し、軌道に乗せたお話を伺いました。



いろいろな縁のなかでの取り組みですが、古民家への思いと古民家を生かそうという強烈な意志と努力がそれを実現しました。興味深いお話でした。

今後の一木会予定

★6月（6月2日）【第190回一木会】

奥会津地熱(株) 代表取締役 安達正敏さん 『地熱エネルギー資源～利用の現状と今後の可能性～』

★7月（7月7日）【第191回一木会】★

(株)ゼロワンオフィス一級建築士事務所 代表取締役 伊藤正さん 『ゼロワンオフィスのコーポラティブハウス（仮題）』

陸前高田のNPOへ義援金を贈りました

5月14日（土）～15日（日）、平野理事、事務局の飛澤と私の3人で、大震災による津波で中心市街地が潰滅する被害を受けた岩手県の陸前高田市を訪れ、市民による復興を目指している「陸前高田創生ふるさと会議」（NPO法人申請中）代表の河野和義氏（八木沢商店会長）に、義援金（50万円）を贈りました。

としまち研では、震災の直後から、大変な被害を受けた地域の皆さんに何か支援ができないかと考え、当面の活動として、会員を中心とする救援募金に取り組んできました。



義援金贈呈の様子

会員や関係者の皆さまの温かいご協力により、この程、まとまった募金額を集めることができましたので、これを第1期分として贈る先を検討していたところ、4月25日（月）に明治大学工学部建築学科山本俊哉教授を中心として開催された東日本大震災復興の緊急特別シンポジウムで、地元でNPOを立ち上げ、災害FM局の開設等に取り組む「陸前高田創生ふるさと会議」を知りました。



会議の様子

災害時FMは、被災地の方々へ様々な生活情報や非常時の情報を伝える大事な伝達手段ですが、放送機器は数百万円と高額なため、立ち上げや運営に相当の資金が必要です。そこで、今回は、同じNPO法人として、復興に頑張る、地元の「陸前高田創生ふるさと会議」に義援金を贈ることを決めました。

今回の義援金が、地元の復興に役立つことを心から願うと共に、これからもとしまち研として、募金や地元でのボランティア活動等の支援を継続的に行っていきたくと思っています。

（としまち研理事 市野恵司）



陸前高田 まちの様子

高齢者住まい法の改正「サービス付き高齢者住宅」の創設

このたび、高齢者住まい法（高齢者の居住の安定確保に関する法律）が改正されます。としまち研では4月4日（月）に長谷川洋氏（国土交通省・国土技術政策総合研究所）にお話を伺い、また、5月10日（火）に開催されたフォーラム「高齢者の住まい政策を考える」（もうひとつの住まい方推進協議会主催）に参加してきました。



フォーラムの様子

今回の改正は、現在の高優賃・高専賃・高円賃を廃止し、新たに「サービス付き高齢者住宅」の登録制度を創設するというものです。見守りや生活支援、医療・福祉と連携した住宅の供給促進をねらいとしており、住宅（面積やバリアフリー等）、サービスの提供、契約に関して登録の要件も定められます。

高齢者の住宅制度が一本化されるとともに、今後、生活や身体に不安のある高齢者も安心して住み続けられる住まいとして、サービスが拡充されることが期待されます。としまち研で、お手伝いしている横浜市鶴見区の密集市街地などでも、地域の人々が安心して暮らせる住まいの形態として「サービス付き高齢者住宅」の検討を行っていきたくと思います。（としまち研事務局 五十嵐敦子）

天竜杉見学ツアーに参加して

4月23日（土）～24日（日）に「奥澤コーポラティブハウス 天竜杉見学ツアー」が組合員である(株)丸清：清水社長のご協力で実施されました。参加者は、組合員とプロジェクトの関係組織のスタッフの総勢20名。



ノルマは一人10本！丁寧に植えました

昼食に立ち寄った天竜森林組合施設は床一面が杉材で、早くも天竜杉の世界が。肉厚の刻み鱧も忘れられない味でした。昼食後、到着した天竜森林組合の加工場と丸志木材(株)は静岡、長野の県境。丸太が木材に加工されていく過程がわかりやすく説明され、携わっている皆さんの誠実さと林業に対する熱い想いが伝わってきます。削った際に出る部分も加工して生かし、ほとんど無駄になるところがないとのこと。宿泊した山王峡温泉しらかば荘では温泉と地元料理を堪能しました。



最後にみんなで記念撮影

翌日は快晴。植林と間伐を体験しました。70代だという現役の方の味のある説明と実演には説得力があります。私達も素人ながら汗をかきかき、夢中で作業しました。植林した杉の伐期は約50年だそうです。成長した姿をいつか確かめてみたいものです。昼食は社員の皆さんが用意くださった豚汁やおにぎり。おみやげに採取したばかりのシイタケ、自家栽培用の原木までいただきました。週末にもかかわらず、社員総出で出迎え、心のこもった対応をくださった丸志木材(株)の皆さんには本当に感銘を受けました。帰路途中には秋野不矩美術館に立ち寄り、充実した二日間の行程を終え、温かい雰囲気のある居心地のよいひとときでした。（奥澤コーポラティブハウス建設組合 久保田恵理）

CH 神田東松下町パート3 外観デザインなどの検討

4月30日（土）に開催された共用部検討委員会で、設計者より建物の外観や共用部の仕上げイメージが紹介されました。中でも、外観の大きな部分を占める外壁タイルは、明るい茶色・赤茶色・濃い茶色の3パターン（土の自然な焼き色やムラが表れるタイプ）が提案されました。さっそくサンプルを外に持ち出して、近く・遠くと交互に何度も眺めたり、雨の日にはどんな色に見えるかと水をかけて確かめたりした後、恒例の人気投票が行われました。



みんなでじっくり検討中

また、委員会に出席できなかった方からも写真やサンプルを見て投票していただいたところ、1～3票差と大接戦になりました。この投票結果や皆さんからのご意見をもとにして、設計者が最終決定します。建設地では、3月11日に発生した東日本大震災の影響を受けながらも、所長さんやスタッフの皆さん、職人さんたちが力を合わせて躯体工事が進められています。どんな仕上がりになるか竣工が待ち遠しいです。（としまち研事務局 関真弓）